

平成26年度 教育事業実施報告

- 1 事業名 映画を創ってみよう!!シナリオ編、撮影編
- 2 期 日 【シナリオ編】平成26年6月21日(土)～22日(日) 1泊2日
【撮影編】平成26年7月19日(土)～21日(月・祝) 2泊3日
- 3 募集定員 6組(1班3～5名で申し込み)
- 4 参加者 6組(23名)
- 5 参加者内訳 小学生19名(小学3年生1名、4年生2名、5年生8名、6年生8名)
(男子1名、女子18名)
中学生 4名(中学1年生3名、2年生1名)
(男子1名、女子3名)
- 6 講師 【シナリオ編】
田 子 明 弘 氏(脚本家)

【撮影編】
藤 嘉 行 氏(映画監督)
瀬 川 龍 氏(カメラマン)
- 7 指導補助 【撮影編】
島 田 美菜実(立命館大学映像学科)
稲 垣 美 穂(立命館大学映像学科)
小 林 達 郎(立命館大学映像学科)
高 橋 隆 亨(京都精華大学メディア造形学部)
山 本 浩太郎(松竹撮影所カメラマン)
- 8 実施プログラム
【シナリオ編】
(1) 6月21日(土)
9:30～10:00 受付
10:00～10:15 開会式
10:15～11:50 パート1「映画ってどうやって創るの？」
「映画のシナリオを書いてみよう！」
11:50～13:00 昼食・休憩
13:00～16:30 パート2「短いシナリオを書いてみよう！」
「書いたシナリオを演じてみよう！」
16:30～17:00 荷物移動・休憩
17:00～17:30 タベのつどい
17:30～18:30 夕食・休憩
18:30～19:15 入浴・休憩

19:15～21:15 パート3「シナリオのテーマをどう表現するか考えてみよう！」

21:15～22:30 就寝準備・休憩

22:30 就寝

(2) 6月22日(日)

7:00～ 7:20 朝のつどい

7:20～ 9:00 朝食・休憩・掃除

9:00～11:30 パート4「テーマ『わたしの夢』をシナリオでどう表現するか決めよう！」

「映画のシナリオを書いてみよう！」

11:30～13:00 昼食・休憩

13:00～14:30 パート5「映画のシナリオを完成させよう！」

「次回、撮影編に向けて！」

14:30～14:45 アンケート記入

14:45～15:00 閉会式

15:00 解散

【撮影編】

(1) 7月19日(土)

9:30～10:00 受付

10:00～10:15 開会式

10:15～11:50 パート1「本読み(脚本を読んで、テーマをみんなで考える)」

11:50～13:00 昼食・休憩

13:00～16:30 パート2「ロケハン(撮影場所を決める)」

「撮影準備(小道具、衣裳など)」

16:30～17:00 荷物移動・休憩

17:00～17:30 タベのつどい

17:30～18:30 夕食・休憩

18:30～19:15 入浴・休憩

19:15～21:15 パート3「リハーサル(演技してみる)」
「絵コンテ作り(具体的にどう撮影するか)」

21:15～22:30 就寝準備・休憩

22:30 就寝

(2) 7月20日(日)

7:00～ 7:20 朝のつどい

7:20～ 9:00 朝食・休憩

9:00～11:30 パート4「撮影」

11:30～13:00 昼食・休憩

13:00～16:30 パート5「撮影、編集(パソコンで撮影した動画をつなげる)」

16:30～17:00 荷物移動・休憩

17:00～17:30 タベのつどい

17:30～18:30 夕食・休憩

18:30～19:15	入浴・休憩
19:15～21:15	パート6「撮影（夜のシーンがあった場合）」 「編集（動画をつないだら、音楽を入れる）」
21:15～22:30	就寝準備・休憩
22:30	就寝

(3) 7月21日（月・祝）

7:00～ 7:20	朝のつどい
7:20～ 9:00	朝食・休憩・掃除
9:00～11:30	パート7「編集（完成させる）」
11:30～13:00	昼食・休憩
13:00～14:30	パート8「発表会（創った作品をみんなで見る）」 「映画創りの体験を話し合う」
14:30～14:45	アンケート記入
14:45～15:00	閉会式
15:00	解散

9 プログラム内容

(1) シナリオ編

シナリオ編では、脚本家の田子明弘氏から、映画の作成に必要なシナリオ創りについての技術を学び、各班で3分間の映画のシナリオを作成した。

1) 1日目

午前中は、昨年度の映画を創ってみよう!!の参加者が作成した作品の鑑賞や、シナリオ編で自分たちが今からどのようなことをするのか、映画完成までの全体の流れの確認と、目標設定を行った。

その後、自己紹介を行い、アジア国際子ども映画祭2014のテーマである「わたしの夢」を参加者一人ひとりが発表し、シナリオ作成に必要な、人に物事を伝えるための言葉と動作の表現方法について、講師と参加者が対話しながら学んだ。

午後は、個人作業を中心に行った。まず、原稿用紙の使い方やシナリオの構成等、シナリオの書き方についての基本的な技術を学んだ。そして、テーマである「わたしの夢」の「夢」はどのような夢（寝ている時にみる夢、将来の夢など）なのか、個人で辞書を引ながら考え、1分程度の短いシナリオを練習で書いて読み合いをした。

夜は、シナリオ作成に向けて、登場人物のキャラクターやロケーションを考えた。

2) 2日目

午前中は、撮影時の映像を想像しながら構成を決定し、シナリオを書き、班の代表作を決定した。

午後は、各班でシナリオの本読み練習をし、各班がみんなの前で発表した。発表した後、講師より作品に対する感想とアドバイスをいただいた。

参加者の子どもたちは、撮影編までに各班でシナリオを推敲し、撮影編に臨むこととなった。

(2) 撮影編

撮影編では、映画監督の藤嘉行氏、カメラマンの瀬川龍氏から、シナリオ編で作成したシナリオに沿った撮影方法や、3分間の映画の作成方法を学び、各班で1本の映画を作成した。

1) 1日目

午前中は、撮影編の全体の流れを確認した後、シナリオを映像にすることをイメージしながら、講師と一緒に各班でシナリオの最終確認を行った。

午後は、シナリオを元に各班で撮影場所を見学（ロケハン）しながら、撮影場所を決定し、撮影に必要な小道具や衣裳の準備をした。

そして、準備ができた班から、講師の撮影指導のもと撮影を始めた。

その後、夜のシーンが必要な班の撮影や他の班の協力が必要となる撮影を行った。また、2日目の撮影に備え、演技練習をしたり、ビデオカメラの使い方や撮影の方法を学んだ。

2) 2日目

午前、午後ともに、各班に別れ、それぞれの撮影場所（交流の家敷地内、近隣小学校等）で撮影を行った。

その後、撮影した動画をつなぎ合わせたり、効果音を入れるなどの、編集作業を行った。

3) 3日目

午前中は、編集作業の続きを行い、各班3分間の映画を仕上げた。

午後からは、各班の作品の上映会を行った。発表前に、各班のリーダーから、作品に込めた思いや工夫した点などを発表した。

10 広報

(1) 広報の手段

1) チラシによる広報

- ・南あわじ市全小学生へ配付（南あわじ市作成の子ども向け事業のチラシに、当事業のチラシを挟みこみ、配付）
- ・洲本市、淡路市小中学校に配付
- ・所内へのチラシの配架

2) 電子メールによる広報

- ・当所のメーリングリストで広報（運営協議会委員、NPO 団体、企業、青少年教育施設職員、行政関係者、過去3年内の当所利用小・中学校、当所教育事業参加者、スイちゃんクラブ会員）

3) 新聞への掲載

- ・朝日新聞、神戸新聞、産経新聞の地域欄に募集記事を掲載

4) その他

- ・当所ホームページへの掲載、Facebook による広報
- ・BAN-BAN ラジオへの出演による募集広報
- ・所内にポスター掲示

11 参加者の声

- ・3分という短い映画なのに、創るには思った以上に時間がかかると思った。
- ・シナリオ作成や撮影などとても難しかったけど、みんなで協力して、作品が上手にできたのでうれしかった。
- ・仲間と1つの作品を作り出すことは大変だったけど楽しかった
- ・班の作品ができあがってうれしかった。
- ・他の班の映画を見て、自分たちと違った作風でおもしろかったし、それぞれの班の工夫をみ

ることができてよかった。

12 担当者の所見

本事業は、子どもたちが実際に映画を創ってみることを通して、自分の思いを伝える力や相手の立場に立って考える力などのコミュニケーション能力を養うこと。また、創った映画をアジア国際子ども映画祭に出品することを通して、子どもの文化芸術体験活動の普及啓発を図ることを目的として実施した。

今年度で2回目の事業であり、昨年度と同じ講師に依頼した。

子どもたちが制作する映画のテーマは、アジア国際子ども映画祭のテーマである「わたしの夢」であった。

成果と課題として以下の点が挙げられる。

(1) 補助員の協力（撮影編のみ）

昨年度の課題として、撮影場所が班ごと（全6班）によって異なったため、講師の指導が十分に行き届かないという課題があった。それを踏まえ、今年度は指導補助として立命館大学映像学部を中心とした大学生に関わっていただいた。そのため、班行動である撮影をスムーズに行うことができた。また、参加者が撮影のことでわからないことがあれば大学生に気軽に相談する場面も多くみられ、参加者もスムーズに撮影できていた。

(2) 申込み人数の検討

昨年度も今年度も1名での応募を受け入れたが（同じ参加者）、事業目的を考えるとグループワークが不可能である1名での申込については、1名応募枠を設け、当日1名募集で集まった参加者で班を作成するなど、検討が必要である。

(3) 全日程参加（シナリオ編、撮影編）を必須

昨年度、全日程の参加が困難な参加者がおり、作品を創りあげたいが班員が入れ替わりすぎて何をやっているのかわからない、という状態になった班があった。目的達成のためにも、今年度は全日程の参加を必須とし、参加者募集を行った。これにより、今年度は映画作成を通して、班ごとに話し合い、班で試行錯誤する場面が多々見られた。

(4) 創ったものが第三者や専門家等に評価される場の提供

自分たちで創ったものが評価される場は、子どもたちにとって大きな挑戦であり、達成感を感じる場であると思う。そのため、引き続き創った作品に応募する場として、テーマをアジア国際子ども映画祭が設定するテーマとし、映画祭出品に向けたプログラムの展開を検討すべきである。

また、映画作成に限らず、「仲間と何かを作り出す」、「作成したものが全国的に評価される場がある」を視点として、新たに事業を開催することも検討してはどうかと思う。

(5) 関係大学との連携について

撮影には、専門的な知識と技術の指導、最低限の撮影機材とそれらを扱う知識が必要であることから、今回補助員で協力いただいた立命館大学映像学部の大学生に今後も協力していただけるよう、大学と連携を検討してはどうかと考える。